

健康ふれあいウォーキング

-富水地区文化遺産と尊徳ゆかりの地を訪れる-

今回は昨年同様分科会“手づくり”のウォーキングコースで、題目塔をかわきりに西北地区から尊徳記念館、そして酒匂川の土手沿いにテニスガーデン脇の霞堤までを巡りました。

雄大な箱根の山並みを背に広がるのどかな田園風景は、幼き頃への郷愁を覚え、心地よい懐かしさに包まれました。小さな水路にも滔々(とうとう)と流れる豊富な水の清さと吹き渡る風を感じ入り、地区それぞれの神社や郷土の偉人・二宮尊徳の功績を学ぶウォーキングになりました。参加者は70代の方が多く、全長7kmほどのコースでも、日頃の鍛錬の成果、健脚をうかがい見ることができました。

主催：富水地区まちづくり委員会
健康・福祉分科会
日時：11月13日9時30分～15時
参加者：83名

捨苗栽培地跡
『日本の米作り100選』指定水田風景

尊徳の生家：縁側でお昼のひと時をのんびり過ごす皆さん

報徳小学校：草鞋を手に持ち、台座に“まごころ”と刻まれた珍しい金次郎像を背に、報徳小の校長先生と教頭先生も一緒に撮影

小田原市立報徳小文

油菜栽培地跡

富水保育園 文

午後に向け凝った体をストレッチ

日本新菜(株)

福田寺：小田原ガイド協会の方の説明を聞く

酒匂川サイクリングコース

小田原市立東富水小文

出発地：富水小学校

明治38年から枯れることの無い蓮乗寺墓所の地下湧水“ああ おいしい!”

富水地区自治会連合会 視察研修

視察先：新潟県柏崎市
日程：11月8日～9日

地域コミュニティ活動が活発な柏崎市を訪問しました。市職員、地域コミュニティ推進協議会(31カ所のコミュニティセンター)会長、副会長から活動内容の説明を受けた後、活発に意見交換を行いました。研修の成果は、今後の富水地区の活動に活かされていくことでしょう。



新潟県柏崎市役所にて記念写真



地域コミュニティ協議会会長、副会長

もっと知りたい! わがまち富水

富水再発見!

酒匂川と新田開発—富水の3つの新田

以前、飯田岡で取り上げた福田寺の高瀬舟は、「ひとたび水が出れば人も家も流される」という酒匂川とこの地域との負の関わりを一端を象徴するものであります。かつて人々は酒匂川の氾濫にずいぶん苦しめられてきました。しかし反面、大水によって運ばれた肥料分の多い沖積層をこの足柄平野にもたらし、現在にまで至る緑豊かな水田地帯形成へと導いてくれたのもまた酒匂川でした。

天正十八年(1590年)の秀吉の小田原攻めの後、徳川家康から小田原城主を命ぜられた大久保氏は、酒匂川の治水と灌漑用水路の整備に力を入れました。大口堰が造成され、これにより、肥沃な足柄平野に新田開発が促されることになりました。

そしてここ富水の地にも1600年代中頃、新しく開墾された土地に人々が住みつき、穴部新田(1650年)、清水新田(1650年)、柳新田(1658年頃)の三つの集落がつけられました。

柳新田稲荷神社

(柳新田21富水駅西約750m)

歴史的遺産

柳新田

古くは飯田岡の飯田神社を産土神としていた。明治末から大正にかけての神社合併政策により、大正3年には小台・新屋の稲荷神社とともに飯田神社に合併されるが、昭和9年に現在の地に分祀される。現在の社殿は昭和61年に建てられたもの。社殿の右横には水神塔と夜泣き石が並んでいる。水難から守られることを願った水神塔、この地区と水との関わりを示すものである。またその昔、赤ちゃんの夜泣きに悩んだ農家のお嫁さんは、この社にお参りし、夜泣き石の小片を頂いて帰ったと言われている。



用水路とめだか公園



—田園風景の情緒を留める用水路とめだか公園—

位置：富水地区の北東側に位置する。仙了川右岸。「柳新田」と云う名の由来：仙了川の土手で、防水のため、柳がたくさん植えられていたのでこの名がついた。新田のでき方と成立時期：飯田岡村の人達が開墾し、村の一部の人が移り住んできた。『新編相模國風土記稿』によると1658年頃の成立と推測。



(参考：『とみず子ども風土記』『江戸時代の小田原』)